

第1号議案

令和3年度 事業報告 令和3年4月1日～令和4年3月31日

特定非営利活動法人フードバンクさが

1. 事業の成果

事業規模拡大と組織基盤強化のため、事務局体制を強化しました。

(専従職員1名とボランティアスタッフ3名の4名体制)

また、法人格を取得して、初めて1年を通して事業を実施し、食支援の必要性や、多くの課題があること実感しました。

人と人とのつながりや参加の機会を生み育む多様な活動を通して、これまでとは異なる新たなご縁が生まれています。その中には、特定の課題の解決を念頭に始まる活動だけでなく、参加する人たちの興味や関心から活動が始まりそれが広がったり横につながったりしながら関係性が豊かな活動を行うことができました。

地域住民や地域の多様な主体が関わることで、人と人、地域資源と人をつなげていく重層的な支援の輪の中に、利用しやすいライフラインとして地域に根差し、「食」を入口として公的な支援につなぐことができる役割を担っていけるよう、今後も取り組みをすすめてまいります。

【フードバンク活動の推移】

	2019年度	2020年度	2021年度計画	2021年度実績
事業費	1,697,404円	5,384,722円	9,578,000円	7,856,225円
食品取扱量 (入庫)	5561.16kg	22871.56kg	50000kg	44758.88kg
寄贈企業・団体	17団体	69団体	100団体	124団体
食品取扱量 (出庫)	3484.52kg	16265.54kg	30,000kg	45320.96kg
食品提供団体数	21団体	75団体	100団体	123団体
最終受益者数	—	—	30,000人	33,826人
重量あたりの 金額換算	1,668,348円	13,722,936円	18,000,000円	26,855,328円

※重量あたりの金額換算は1キロあたり600円の評価額を利用

2 会員・寄附の拡大

事業が安定して継続できるように会員・寄附の拡大に取り組みました。

①会員/会費

	正会員 (学生会員)	団体正会員	賛助会員	特別賛助団体	賛助団体
2019 年度	55(1)名	0 団体	19 口	0 団体	15 口
	163,000 円	0 円	38,000 円	0 円	150,000 円
2020 年度	68(1)名	0 団体	19 口	1 団体	30 口
	202,000 円	0 円	38,000 円	100,000 円	300,000 円
2021 年度 計画	90(10)名	20 団体	50 口	3 団体	30 口
	250,000 円	200,000 円	100,000 円	300,000 円	300,000 円
2021 年度 実績	56 名(1)	0	57 口	1 団体	35 口
	166,000 円	0	114,000 円	100,000 円	350,000 円

②寄附

	企業・団体	個人・その他	ろうきん NPO サポーターズ	ふるさと納税	GCF
2021 年度 計画	2,000,000 円	1,000,000 円	300,000 円	4,000,000 円	3,000,000 円
2021 年度 実績	2,740,000 円	907,820 円	115,400 円	960,000 円	4,196,300 円

③寄附金付き自販機

	売上本数	売上金額(円)	寄付金額(円)
4 月	149	19,350	4,470
5 月	193	25,650	5,790
6 月	109	14,060	3,270
7 月	136	18,380	4,080
8 月	131	18,010	3,930
9 月	142	19,280	4,260
10 月	102	13,680	3,060
11 月	110	14,990	3,300
12 月	289	39,040	8,670
1 月	114	14,850	3,420
2 月	61	7,930	1,830
3 月	117	15,980	3,510
合計	1653	221,200	49,590



④ふるさと納税

「佐賀県 NPO 支援×フードバンクさが」として2年目のとりくみは、活動に賛同していただいた企業様の商品を返礼品として取り扱いを開始しました。目標額 400 万円に対し 96 万円にとどまりました。更なる返礼の開拓と広報の充実が必要です。

⑤GCF

2022 年度に実施予定の「おうちで安心・お弁当プロジェクト」の運営資金獲得のために GCF にチャレンジしました。

「おうちで安心お弁当プロジェクト」は、給食のない長期休暇期間（夏休みや冬休み）に経済的に生活に困りごとを抱えるご家庭を対象に、延べ 2,700 人を対象に地域の支援団体の皆さんと連携し、お弁当をお届けするプロジェクトです。

目標額 300 万円に対し、419 万円のご寄付をいただきました。

⑥ろうきん NPO サポーターズ

ろうきんの「NPO 自動寄附システム」は福祉・環境・文化などさまざまな分野でボランティア活動を展開している NPO と市民・勤労者とをつなぐ新しい社会貢献のかたちです。

今年度からこのしくみを活用し、毎月 100 円からの寄附を募り計 115,400 円のご寄付をいただきました。

3 補助金・助成金等の活用

	助成事業名	助成金額 (円)	助成元
1	コロナ禍における困窮家庭への食糧支援とサポートリンク提供事業	300,000	佐賀県共同募金会
2	With コロナ草の根応援助成（第3回）	100,000	中央共同募金会
3	ひとり親世帯の、おなか一杯プロジェクト	300,000	こくみん共済 co-op 地域助成
4	コロナ禍でのひとり親家庭への緊急支援事業	300,000	連合・愛のキャンパ地域助成
5	コロナ禍だからこそ みんなで支えるひとり親家庭支援事業	300,000	佐賀県共同募金会
6	第3回フードバンク活動応援助成	1,000,000	中央共同募金会
7	令和3年8月豪雨災害緊急支援金	100,000	(公財)共生地域創造財団
8	〃	100,000	コープさが生活協同組合
9	効果的で安全な食品ロス削減のために HACCPを学ぶ	45,857	佐賀県「ストップ温暖化」 県民運動推進会議
10	コロナ禍を乗り越える みんなで支える歳末家庭支援事業	126,000	佐賀県共同募金会
11	地域みまもり連携、給食のない冬休みも、 お弁当でおなかいっぱいプロジェクト	900,000	(一社)芳心会
12	令和3年度「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」	0	厚生労働省 *食品提供（約50万円分）と備品提供
13	「国産農林水産物等販路開拓多様化緊急対策事業のうち子ども食堂等への提供」	0	農林水産省 *米2,240kg提供
	合計	3,571,857	

(1) コロナ禍における困窮家庭への食糧支援とサポートリンク提供事業

事業期間：4月1日～6月30日

コロナ禍において、本来子ども食堂が持つ第3の居場所としての機能が、直接の支援（食支援）に変化しています。一方で食支援の需要が高まる中、未利用食品（食品ロス）を資源として有効活用を図るため、「フードドライブ」「フードパントリー」を開催しました。

本事業では、佐賀県や佐賀県国際交流プラザ、佐賀大学生協のご協力やこども宅食や「隣友の会」との連携をしました。

また、助成金を活用し、通常フードドライブでは集まりにくいハラル食品や低アレルギー食品を購入して留学生や乳幼児世帯へ提供することができました。



(2) 第3回 with コロナ草の根応援助成

事業期間：4月1日～9月30日

コロナの終息が見えない状況の中、感染拡大リスクを軽減し、学習会や会議をオンライン化し、より効果的に情報提供できるように機材の拡張を実施しました。

これにより、企業との食品寄贈提案の際の面談やセミナーや学習会等で活用し、コロナ禍でも非対面で事業をすすめることができました。



(3) (4) お米プロジェクト

- ・ひとり親世帯の、おなか一杯プロジェクト
- ・コロナ禍でのひとり親家庭への緊急支援事業

事業期間：7月1日～2月28日

佐賀県母子寡婦福祉連合会（佐賀県ひとり親家庭サポートセンター）と連携し、児童扶養手当受給のひとり親世帯、前期（7～9月）50世帯、後期（11～1月）100世帯に毎月5キロのお米を計6か月間提供しました。

生産者をはじめ、こくみん共済 co-op、JA 食糧さが、栗林米穀など有志の方々からお米の寄贈を受けひとり親世帯に届けることができました。

募集や実施には母子連のLINEを活用し、連絡や情報提供を行いました。また本事業はひとり親世帯への情報提供や相談しやすい環境を整えるきっかけともなりました。また、12月には九電ユニオン様のご寄付と併せてクリスマスケーキを100世帯にお届けしました。



(5) コロナ禍だからこそ みんなで支えるひとり親家庭支援事業

実施期間：7月1日～9月30日

ひとり親家庭の親子の不安を少しでも軽くすべく、前述のお米プロジェクトから漏れた41世帯に毎月5キロのお米を3か月間提供した。提供に際しては同様に佐賀県母子寡婦福祉連合会と連携した。



(6) 第3回フードバンク活動助成

事業期間：8月1日～12月31日

常温品の受入拡大、試験的に取り扱いを行っていた冷凍・冷蔵食品の受入拡大と品質管理の精度をあげるための設備の拡充を行いました。

常温品だけでは栄養の偏りがあることから、肉、魚、野菜類や乳製品の取り扱いにチャレンジするため、冷凍・冷蔵庫の設備、フードディフェンスを目的とした、監視カメラを導入しました。



(7)(8)令和3年8月豪雨災害緊急支援金

事業期間：8月～2月28日

8月豪雨災害において、SPF（佐賀災害支援プラットフォーム）と連携し被災した地域（武雄市・大町町・嬉野市）のニーズを聞きながら、フードバンクの食品提供はもとより、フードバンクで調達できない物品について、助成金を活用して災害支援を行いました。

発災直後から、日々変わっていく地域のニーズに、優先度の高いもの、必要数を確認しながら提供することができました。

また被災地を訪問し、当時の状況や被災された方々からの話を聞き、思いを共有することができ、今後の支援に活かしていきたいと思えます。



(9) 効果的で安全な食品ロス削減のために HACCP を学ぶ

事業期間：11月20日

講師：西九州大学 講師 緒方 智宏 氏

フードバンクでは未利用食品（食品ロス）の有効活用をし、食の支援を行っています。食の安全のバトンが最後までつなぐことができなければ、再びロスとなってしまいます。そこで食品管理を行う際のリスクの軽減と管理体制を確立できるよう、専門家から

「HACCP の考え方を取り入れた」食品衛生管理を学びました。そして寄贈元と提供先の双方から信頼を得られる団体になることが求められています。

更には、提供団体の方々に食品衛生管理を学ぶ機会を提供することによって、意識と安全性の向上をめざしました。



(10) コロナ禍を乗り越える、みんなで支える歳末家庭支援事業

事業期間：11月1日～12月31日

歳末期間に苦境にある家庭や学生に対して、食品の提供を行いました。

12月14日 佐賀女子短期大学の協力で70セットを提供

12月14日 西九州短期大学の協力で50セットを提供

12月21日 佐賀大学生協・並びに学生有志の協力で100セットを提供

12月24日 佐賀県母子寡婦福祉連合会の協力で母子生活支援施設にクリスマスケーキ16個とクリスマスカードを提供

1月8日 佐賀大学医系学生サポートセンターの協力で、通常の食品に加え冷凍食品15セットを提供

12月14日～28日

助成金で購入したラーメンスープと寄贈いただいた中華麺をセットしてこども宅食の協力で100セット提供



(11) 地域みまもり連携、給食のない冬休みも、お弁当でおなかいっぱいプロジェクト
事業期間：10月1日～1月31日

プロジェクトメンバー：スチューデント・サポート・フェイス

こども宅食・佐賀県社会福祉士会・コープさが生活協同組合
スクールソーシャルワーカー・みんなのおうちほわ〜っと
医療生協・フードバンクさが

佐賀県内の3地域（鳥栖・基山、神埼、佐賀市）で給食のない冬休みの期間に、小中学生を対象にお弁当をお届けし、配送と相談、見守りを行いました。

栄養の面を考慮し毎回弁当と牛乳をセットとし、お届けしました。一食当たり 640 円

3 地区あわせて 898 食 季節食 138 食 合計 1,036 食



(12) 令和3年度「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」

新型コロナウイルス感染症の影響等により困窮するひとり親家庭等の子ども等を支援するため、食品の支援活動を行う団体に対して、食品の提供及び食品の配布能力の向上に向けたインフラ整備を支援する目的で、約50万円分の食品と保冷用シッパー、保冷剤の運用を行いました。ひとり親家庭への提供に限るとのことであったため、普段から当該食支援を行っている団体にお声掛けし、集中的に提供しました。



(13) 「国産農林水産物等販路開拓多様化緊急対策事業のうち子ども食堂等への提供」

新型コロナウイルスの影響が長期化することにより、社会的な孤独・孤立の問題が深刻化する中で、フードバンクを通じて食品の支援を行う必要性が高まっています。

このような中、フードバンクは、食品関連事業者その他の者から未利用食品の寄附を受けて、子ども食堂、生活困窮者、福祉施設等（以下「子ども食堂等」という。）にこれを無償で提供する活動を行っており、フードバンクの果たす役割は、一層重要となっています。

本事業では事前に子ども食堂とこども宅食を行っている団体の利用量を調査し、その2か月分にあたる、精米2,240kgを分配し提供しました。



※未採択事業

「コロナ禍で生活困窮に陥った方への生活相談事業及びフードパントリー事業」については、唐人倉庫にて食の相談窓口として対応し、生活自立支援センター・居住支援団体・生活再建団体や社会福祉協議会と連携し、食の提供や継続的な支援へとつなぎました。

4 食品寄贈の受取

- (1) 食品企業や団体からの寄贈は 69 団体から 124 団体へ増加しています。

特に冷凍庫・冷蔵庫を導入したことにより寄贈食品の種類が拡大し、食品企業との合意書の締結につながる事例が増加しました。

※食品寄贈量 44.8t 重量あたりの金額換算約 2,686 万円

- (2) 協力団体のコープさが生活協同組合と連携し、年に 2 回、配達システムを活用したフードドライブと新栄店での常設のフードドライブを継続して実施し、食品や日用雑貨品の寄贈を受けました。

※新栄店フードドライブ 335 kg

配達システムを活用したフードドライブ 1,916 kg

- (3) 自治会、PTA、企業、小売店、団体等が食品ロス削減と身近な社会貢献活動として取り組み、活動が拡がりました。

※フードドライブ常設 コープさが新栄店・ゆめマート

期間限定 イオンモール佐賀大和・アバンセ・マルキョウ大財店

フードドライブ実施団体 23 団体 寄贈数量 2,630 kg

フードドライブセットの貸出件数 16 件



- (4) 県や佐賀市の行政の窓口となる関係部署との情報交換や意見交換を行いました。

また、行政と連携した先進的な取り組み事例を参考に、佐賀県や佐賀市との意見交換を行いました。

福祉の窓口となる関係部署との連携については進んでおらず、今後は事業実施の際に説明や協力の依頼を行っていきます。

5 団体への食品提供

- (1) 子ども食堂や子どもの居場所等、食の支援が広がっており、食品の需要は高まっています。

合意書を交わした団体数は 66 団体から 98 団体へ増加しています。

※食品提供量 45.3t 重量あたりの金額換算 2,719 万円

- (2) 食品の寄贈量が増加するにあたり、各団体への適正な量の提供が課題となっています。未
利用食品の有効活用の面から、多くの団体が活用できるように再配分に配慮します。



- (3) 個人的な支援については行わず、関係機関と連携し団体を窓口として提供するしくみを継続しました。

ただし、家庭で困りごとを抱えている方々の食支援の相談は団体として受け止め、必要な団体へつないでいきます。

- (4) これまでの食品提供から見えてきた課題から、地域の声を聞き、関係機関と連携し、必要な人に必要なものが届くようしくみづくりが必要となっています。

①困りごとを抱えていても支援とつながることの難しさ

②困りごとがどんなことかわかったとしても、一つの困りごとに対する背景が複雑に絡み合っているため単体の組織での課題解決が難しい。

③子ども食堂等、各地で食支援の拡がりを見せているが、本当に困っている人が見えづらい。

④支援制度やサービスは準備されているが、そこまでたどり着けない家庭がある。

- (5) 災害等緊急支援の体制として、佐賀災害支援プラットフォームとの連携事例から、地域のニーズの聞き取りなど専門性を持つ団体との情報共有は食支援の面で非常に有効でした。ただ食品ロス削減の観点から寄贈された食品が必ずしも現場で有効活用できるとは限らないため、今年度災害支援金として助成を受けた資金は日々変わっていく地域のニーズを把握し、在庫食品とあわせて購入して調達することができ、大変喜ばれました。

※コープさが生活協同組合 10万円

※公益財団法人 共生地域創造財団 10万円



- (6) フードバンクさがでは団体を窓口として食品の提供を行っているため、最終的に食品をお届けしている方々の属性や受益者数について調査を行いました。

2021年度受益者数 33,826人

6 運営体制

- (1) 専従職員の継続雇用に努めました。
- (2) 専従職員の他、3名のボランティアスタッフを配置し事務局体制を整えました。
しかしながら3名についてはボランティアであり、本来人件費として発生する費用を抑えています。
※決算書参照 ボランティア評価益として420万円を計上
- (3) 運営委員会の立ち上げができず、事業は事務局が主体となり実施しました。
- (4) 事務局のもとに部局（総務・会計、企画・広報、営業・渉外）を設け、社員総会で議決した事項を執行する機能を持たせることができませんでした。
- (5) 大学や高校、個人の方をボランティアとして受入れ、活動に携わることによりフードバンク活動を知ってもらうことができました。



7 食品の安全管理

- (1) 賞味期限内の提供を徹底しました。しかしながら食品の種類や賞味期限によっては需要と供給のバランスが難しい場合もあり、受入段階で調整をかけながら提供をしました。
- (2) 毎年、食品事故0をめざし、食品の品質管理や衛生管理を徹底しました。
冷凍・冷蔵食品を本格的に取り扱い開始したこともあり、貸出用の保冷バッグの他にシッパ―と保冷剤を購入し、品質管理に努めました。
また入出庫の際の帳票を見直し、アレルギーの確認、賞味期限内の使用、食品の転売や支援対象者以外の第三者への譲渡の禁止、食品ごとに定められている保存方法に従った保管など、提供団体へのチェック機能を追記しました。
想定されるあらゆるリスクを洗い出し、リスクが発生したときの影響と発生を抑止するための方策に影響度の大きさに従い、リスク防止策を実行していきます。
- (3) 食品を取り扱う団体として、子ども食堂等に呼びかけ HACCP の考え方を取り入れた衛生管理に取り組むための研修会を実施しました
事業実施 11月20日 於：佐賀市市民活動プラザ
講師： 西九州大学講師 緒方 智宏氏
- (4) 保健所と連携し、情報交換や講師の派遣依頼についてお願いしました。
コロナ禍の状況も鑑み、Zoom 対応が可能となりました。

8 情報発信と共有

- (1) 団体内の情報の共有については事務局会議や日報等で管理しました。
- (2) ホームページに団体の基本情報や事業報告書・事業決算書の掲載をしました。
- (3) Facebook や Twitter を活用し広報しました。
- (4) 会員への報告としてニュースレターを発行しました。年4回の発行はできず、年間を通した報告となりました。
- (5) メディア取材や出演
 - ・サガテレビ（取材・出演）
 - ・佐賀新聞（取材）
 - ・FM さが（出演）
 - ・えびす FM（出演）

9 食品ロス削減啓発活動

- (1) 「フードドライブ」貸出セットを活用し、市民参加型の食品ロス削減として、家庭内の未利用食品を持ち寄る「フードドライブ」活動をすすめました。

- (4) 災害支援の体制作りについては、平時は食品を必要としている提供団体へ優先的に提供し、災害時には緊急的な支援ができるように食品の再配分を行いました。
また、地域の災害支援団体との連携を図り、情報を共有し、食品や日用雑貨品の提供を行いました。
- (5) 食育ネットワークの加盟団体として参加し、情報提供を受けました。
食の大切さや感謝の気持ちをはぐくむためのイベント等では、こどもたちと野菜を使ったゲームやパネル展示を行い、食について親子で考えてもらうきっかけとなりました。
- (6) 大学や高校生のボランティアを受け入れしました。
- ①佐賀大学（ゼミ2・環境フォーラム食品ロス班）
 - ②西九州大学
 - ③佐賀女子短期大学
 - ④おおぞら高等学院
 - ⑤北陵高校
 - ⑥国際高等学園
- その他、個人でボランティアに参加する学生の受け入れも行いました。

11 フードバンク間連携

- (1) 全国フードバンク推進協議会との連携
- ① 協議会を窓口として、食品の寄贈を受けます。
 - ② セミナーや事業説明会へ zoom で参加しました。
 - ③ 関係省庁への政策提言のため、フードバンクさかの現状や課題を挙げていきました。
 - ④ 助成金情報を活用し、検討及び申請を行い、助成事業の採択へとつながりました。
- (2) 福岡県や長崎県のフードバンクとの連携をし、食品の融通を行いました。
また、フードバンク活動全般について、情報交流を行いました。
- (3) 唐津市で新規のフードバンク設立のため、ボランティアとしての受け入れや、情報提供を行いました。
- (4) 県内でもフードパントリーを開設する団体が増加しています。
新規でパントリーを開設したい団体と、今後の連携を検討しています。
- (5) 他団体と連携しイベントに参加しました。

12 コミュニティの活用

フードバンク活動を広く市民に知ってもらうために、ホームページや Facebook で広報しました。

コロナ禍のため、制限が多くイベント（集会）という形での活用は1回にとどまりましたが、提供日は食支援団体が多く集まり、地域コミュニティの交流の場となっています。